

であいこうか

地域でお囃子の伝承を

にしざわ しょうはち
西澤 正八さん



水口町在住の西澤さんは、水口まつり（水口曳山祭）の「水口ばやし」が大好き。その自慢の水口ばやしを伝え、残していくために「2004 テケテンキッズ」という団体でお囃子を教えています。

◆テケテンキッズを始められたきっかけは？

昔は、お祭りが一番の楽しみで、みんなで「水口ばやし」を練習していましたが、今はそれ以外の楽しみがたくさんあり、子どもの数も減ってきたからお囃子をやる人が減ってきたんです。こんなに素晴らしいお囃子があるのに「このまま絶えてしまわへんかな」と思ったのがきっかけで、知り合いの子どもで興味を持ってくれている子に教え始めたのが最初ですね。そのうち「おっちゃん。友達連れてきてええか？」と言うてくれる子のおかげで人数も増え、「全国曳山囃子大会」に出場することになって名付けたのが「2004 テケテンキッズ」です。

◆活動の将来の目標はありますか？

お囃子ってすごく単純なんです。けれど、だからこそ楽譜には残せない微妙な音が作り上げているんです。それは、演奏する人の感覚で成り立っているものです。つまり、人が音を聞いて継承していく伝統芸能で、既に誰もが音を知らず、途絶えてしまったお囃子もあります。身体の続く限り、町内だけに限らず、少しでも縁のあった人にはどんどん伝えていきたいと思っています。

◆最後に今後の意気込みをお願いします。

地域の皆さんは、大きな音の出るお囃子の練習を受け入れてきてくださったり、一緒に教えてくださったり、本当に感謝しています。地域の中で、僕のような地域の人間が伝統芸能を教えるという場は少ないと思いますが、こういうことも大切ではないかなと思っています。

いつでも、どの地域の方も一緒に水口囃子を練習していける場を作り守っていききたいと思います。

「2004 テケテンキッズ」メンバー大募集

水口囃子を学んで、水口曳山祭に祭の一員として参加するほか、様々な催しでお囃子を披露します。
場 所：湯屋町集会所（水口町元町3-11）
練習時間：毎月第2、4土曜日 20時～21時30分ごろ
募集対象：やる気のある方なら市外の方、老若男女誰でもOK
そ の 他：会費など費用はかかりません 楽器は貸し出します
問い合わせ&申し込み：西澤さん方 ☎62-2478

いざという時に備え真剣に 水口消防署・公立甲賀病院合同防災訓練

さんに防災意識を高めてもらうことが目的です。訓練では、上階で助けを求める患者をはしご車で救出したり、建物の内傷者を担架に乗せてロープで下す「一箇所吊り」の演習など、実戦的な訓練が敷地内のあちこちで行われました。参加した消防職員や病院関係者は冷たい風の吹きすさぶ気候の中にあっても、いざという時のために備え、口をしっかりと結んだ真剣な眼差しで訓練に集中していました。



▲はしごを使って逃げ遅れた人を救助

水口消防署と公立甲賀病院の連携する合同防災訓練が3月6日、昨年新築された同病院敷地内で病院の消防訓練と併せて実施されました。この訓練は、発生が懸念されている巨大地震に備え、災害時における消防・病院の円滑な連携の確保と、市民の皆

まちづくりの交流支える情報紙作り

わいわい甲賀楽交講座

市民活動に携わる団体や個人が集う「まちづくり交流会」が3月8日、忍の里プラザで開催され、約150人が参加しました。この交流会は、市が主宰するまちづくり塾「甲賀楽交講座」のメンバーが主となり企画したもので、市内外から訪れた参加者は「3分間プレゼンテーション」に聞き入ったり、分科会に分かれ講演・ワークショップを通じて交流を深め、知恵や経験を共有しました。この催しの中で、同講座の情報活用グループが新聞を使った会場内の情報発信と、その編集作業の様子を公開するという試みに取り組みました。グループの指揮を執った吉田編集長は「実際にやってみて初めて分かったことがある。今後も今回の経験を活かして、会場でのリアルタイムの情報発信を色々な場所で続けていきたい」と、取り組みに手ごたえを感じていました。



▲ロビーに設置された公開編集室

元気なまちかど

工事現場を学び舎に環境学ぶ

雲井小学校CESAアクションプログラム

「環境にやさしい工事と命育む水と里山ウォッチング」が2月28日、県道大津信楽線の現場で行われ、雲井小学校4年生の児童22人らが工事と環境について学びました。この学習を主催したのは工事現場を学び舎とする環境学習に取り組むNPO法人CESAの皆さんで、株式会社桑原組の協力を得て実施されました。ヘルメットと手袋で安全対策を万全にした児童らは、道路付け替え工事の現場で作業用機械に触れたり、現場周辺の植物保護など、工事は環境に最大限の配慮をしていることを学びました。CESA専務理事で環境学習専門家の今村さんは「工事現場の環境や安全に配慮した取り組みを実際に見てもらい、関心を持ってもらえたら」と児童の笑顔を見守っていました。



▲ヘルメットを被って工事現場で学習

オーストラリアの昔話絵本の読み聞かせ

世界まなびじゅく2013

世界まなびじゅく2013「絵本の世界に入ろう」が3月2日、自主活動センターきずなで実施され、約15名の親子が絵本の読み聞かせや塗り絵を楽しみました。この催しは国際交流協会が主催したもので、3回目となる今回は、ALETの協力を得て、オーストラリアの絵本を楽しむという内容でした。オーストラリアの先住民アボリジニの皆さんの中で語り継がれてきた昔話をもとに作られた絵本には、皆が違いを認め合い、仲良くしようという多文化共生のメッセージが込められており、参加者は穏やかな表情で聴き入っていました。参加者の1人は「大昔からこんなに優しいお話が伝わっているということに感動しました。子どもたちにもきくと伝わったのでは」と微笑んでいました。



▲オーストラリアの昔話に聞き入る一同

楽しくたくましく防災の知識を学ぶ

甲南幼稚園幼年消防クラブ修了式

幼年消防クラブの修了式が3月4日、甲南幼稚園で行われ、67人の園児たちが消防はつぴを着て式に臨みました。同クラブは、年長組の園児が入部するもので、消防署員などから花火の扱い方や消火訓練など防火について様々な知識を学ぶものです。この日園児たちは、元気いっぱい「防火の誓い」を唱和し、そのあとに市消防団女性消防隊の皆さんによる劇を楽しみました。劇中では、地震、雷や火事といった色々な場面での安全な行動をクイズを交えて確認しましたが、園児たちはほとんど正しく答えることができ、楽しそうな雰囲気の中でも、1年間たくましく防災の知識を学んだことを披露していました。



▲元気いっぱい「防火の誓い」を